

1、期間

平成 24 年 1 月 20 日～23 日

2、支援場所

石巻市 NPO 法人ジャパンハート子ども・内科クリニック  
(宮城県石巻市新成 1-18-5)

3、支援内容

先月から開設した NPO 法人ジャパンハート 子ども・内科クリニックの土日診療に参加するため、20 日午後から宮城県へ移動を致しました。雨模様から雪に変わり北上するにつれて寒さが厳しくなるのを感じました。

NPO 法人が宮城県でクリニックを開設するのは初めてということで、沢山の書類手続きを経て 3 カ月の準備期間を経て現実のものとなりました。

しげい病院、附属病院から頂いたご支援を投入させていただき、充実した診療所を設立することができました。超音波装置を設置し、血液検査 (CBC、生化学、尿一般検査、血液ガスが測定可能。)、インフルエンザ・溶連菌・RSV 迅速検査が可能です。職員の皆さまに感謝申し上げます。



診療所の外観

土曜日は 28 名、日曜日は 50 名の患者さんが来院されました。

東北でもインフルエンザが大流行しており、ほぼ 8 割の患者さんがインフルエンザによる発熱で来院されました。

「遠くの病院に通うのは大変だから助かった」

「待合室でなるべく他の患者さんと一緒にならないよう配慮されているから助かる」

「石巻には小児科が少ないから、石巻日赤病院まで通っていた。3時間待ちは当たり前。」

など、患者さんの生の声を聞くことができ、今後の改善点にしたいと感じました。夜間の電話対応・診療が可能であることをお伝えしても、「悪いから、朝まで待つ」という方が多いのが印象的でした。

2名のインフルエンザの小児で点滴加療が必要と判断し、外来で4時間過ごして頂きました。お母さんは「夜に病院に行くのは大変だからね」と子どもにお話しているため詳しく事情をお伺いすると、「夜の海を見るのが怖いんです」と仰りました。震災の時に津波に飲み込まれそうになり、大けがをしたこと、ガラスによる切傷の痛みを思い出してしまうということでした。震災後、もうすぐ1年を迎えようとしています、震災を経験していない自分に一体何ができるのだろうと自問自答してしまいます。



診療所の目の前には仮設住宅が立ち並んでおり、知らない地域から仮設住宅に当選してこの地域に引っ越してきた方々も多いため、孤独な生活を送っていることが問題となっています。孤独な時間を埋めるためのアルコール依存、買い物に行きたいが交通手段が限られている、寒さ対策など様々な問題が横たわっています。そこで、この診療所が仮設の人々の接点になる役目も果たしていけるのではないかと思います、周辺仮設への訪問サービスも今後始めて行きたいと思っております。

日曜日には重井文博先生が診療所に立ち寄って下さりました。

そして、「イメージ通りの診療所だね。」

と言って下さりました。



重井先生をお迎えしての一枚。



ジャパンハートの職員でミャンマーから帰国して診療所を手伝うスタッフ。  
静岡県から毎週末夜行バスで通って応援してくれるボランティアスタッフ。  
仙台出身で医療事務を一から勉強して窓口をしているスタッフ。  
自分の通常勤務を終えた後に手伝いに来てくれるボランティアスタッフ。

沢山のスタッフに支えられて診療が始まりました。

「あの診療所があるから、安心。」

と地域の皆さんが思っ下さるよう頑張りたいと思います。